

(様式 1)

平成 18 年度研究報告書

研究代表者 羽根田紀幸
島根難病研究所研究部門 小児難病部門
所属 どれみクリニック小児科
氏名 羽根田紀幸

1. 研究テーマ「モンゴル国への医療援助—モンゴル国へ渡航しての小児心疾患に対するカテーテル診断・治療の実践」

2. 研究者氏名 羽根田紀幸、富田英、野木俊二、堀口泰典、檜垣高史、田村真通、高田秀実、鶴見文俊、片岡功一、岸田憲二、安田謙二、田中慎一郎、上田秀明、矢野宏、増川昭子、武田南美子、星郁恵、根岸聡文、伊藤康弘、Enkhsaikhan、Buya、Baasanjav

3. 研究概要

〔目的と方法〕立ち遅れている小児循環器医療のために治療が放置されているモンゴルの先天性心疾患児を1人でも多く救うことと、あわせてモンゴルの小児循環器医療の自立を目指して平成13年10月よりカテーテル治療を中心としたモンゴル渡航診療を行ってきたが、第7回となる平成18年度の活動は平成18年8月5日～12日の日程で渡航した。いままでと同じく全国から有志を募り、資金は広く日本国内からの募金により、器材はその募金によって日本国内で調達して手荷物として持ち込んだ。今回は、小児循環器医師13名を中心に研修医・臨床工学士・臨床検査技師・超音波検査など計19名で医療チームを編成した。

途中で同国のテレビ新聞などのマスコミに大きく報道されたため、予定患者以外にも多数の来院があり、最終的には心エコー検査は80名に、心臓カテーテルは29名（治療20名、検査9名）に行った。

治療カテーテルは8月7日から10日までの4日間連日で行った。治療カテーテルの内訳は、動脈管開存を経カテーテル的にコイルで閉鎖したのが18名、肺動脈弁狭窄をバルンカテーテルで拡張したのが2名であった。前回中国のLarry

Meng 医師が提供してくれた AGA 社製 Amplatzer 動脈管閉鎖システムは、彼が AGA の販売権を失ったため入手できず、18 名全員を従来のようにコイルで閉鎖した。バルン拡張した 2 名の肺動脈弁狭窄は、右室圧が左室圧と等圧か左室より高い重症例であったが、問題なく拡張できた。Amplatzer 動脈管閉鎖システムが入手できなかったこと、動脈管開存症例は外科手術から年数が経過した術後残存例の重症例が多かったこと、治療カテーテルの期間が 4 日間と短かったこと、前もって予定していたよりも多くの患者が来院したこと、などから非常にタイトなスケジュールとなった。毎朝 8 時 30 分に治療を開始し、早い時に 20 : 30 分終了、遅い時は夜中の 0 時 30 分までかかった。術後で太い動脈管が残存していた成人例でコイルが脱落したが、無事回収でき、最終的には全員合併症なく終了致した。この症例は平成 19 年 1 月の第 18 回日本 Pediatric Interventional Cardiology 研究会において報告した。カテーテル治療した 20 名のほとんどは心不全症状が顕著であったが全員元気になった。いままでの症例とのまとめを同じく第 18 回日本 Pediatric Interventional Cardiology 研究会で報告した。日本ではあまり見ないような太い動脈管開存が多数来院したので、コイル閉鎖前後の冠動脈血流の変化を日本から持参した心エコー装置を用いて検討し、同じく第 18 回日本 Pediatric Interventional Cardiology 研究会に preliminary study として報告した。冠動脈血流の変化に関しては、今後さらに症例を重ねていく必要があると考えている。

第 4 回渡航から行っている地方都市での小児心臓検診は、今回はウランバートルから北西へ 300 km 離れたボルガン県の 2 つ市で 8 月 10~11 日に実施致し、およそ 100 名が来院致した。この結果は平成 19 年 4 月の第 110 回日本小児科学会で報告した。

さらに、島根県出身横浜市在住の春日行雄先生が私財で運営されているウランバートル郊外の孤児院テムジンの友塾への慰問も、島根県出雲市立塩冶小学校生徒から託されたチャリティー品を持って、活動初日の心エコー検査後に行なうことができた。

〔考察と今後の活動予定〕本プロジェクトのゴールはモンゴルの小児循環器医療の自立においている。外科手術の成績が不良なモンゴルの実状を考えると、モンゴルの子どもを救う現実的な方法は、まずは病名だけでなく治療方法や時期までも含めた正確な診断ができる小児循環器医を育てることである。そのためには、モンゴル人医師を息長く指導しながら、治療の有力な方法の 1 つとして我々がカ

テーテル治療の実践を継続していくことが必要と考えている。国全体の経済が厳しい状況にあるモンゴルでは、心臓外科医のレベルアップをはかることもカテーテル治療を進めることも困難な状況にある。でも、経済状態が厳しいから何もしないのではなく、できるところから同国の小児循環器のレベルアップを進めることが大切と考えている。その意味で、カテーテル治療の実践と併行して、講義、症例検討会、地方都市検診も行っているが、今後はこれら教育プログラムの充実がより大切と思われる。

4. 学会機関誌もしくは学会への関連論文（演題）発表状況

学会発表

- 1) 羽根田紀幸、富田英、黒江兼司、野木俊二、檜垣高史、堀口泰典、上田秀明、田村真通、鶴見文俊、安田謙二. モンゴル渡航小児循環器診療計6回のまとめ. 第109回日本小児科学会学術集会. 平成18年4月22日, 金沢市
- 2) 堀口泰典、羽根田紀幸、黒江兼司、富田英、野木俊二、檜垣高史、田村真通、上田秀明、安田謙二. セレンゲ県スフバートルでの心臓検診 第6次モンゴル渡航小児循環器診療の一環として. 第109回日本小児科学会学術集会. 平成18年4月22日, 金沢市
- 3) 武田南美子、堀口泰典、高田秀実、檜垣高史、羽根田紀幸. モンゴル国地方都市での小児心臓病検診活動の経験—ハートセービングプロジェクト—. 第55回日本医学検査学会. 平成18年5月19日, 松江市
- 4) 堀口泰典、羽根田紀幸、高田秀実、黒江兼司、富田英、野木俊二、檜垣高史、田村真通、上田秀明、安田謙二、鶴見文俊. 未治療心疾患の発育に及ぼす影響—モンゴル国セレンゲ県の心臓検診データより—. 第42回日本小児循環器学会. 平成18年7月15日, 名古屋市
- 5) 堀口泰典、富田英、羽根田紀幸、檜垣高史、田村真通、野木俊二、岸田憲二、片岡功一、高田秀実、鶴見文俊、田中慎一郎、上田秀明、安田謙二、矢野宏. PDAコイル閉鎖前後の冠血流の変化. 第18回日本Pediatric Interventional Cardiology研究会. 平成19年1月19日-20日, 福岡市.
- 6) 檜垣高史、羽根田紀幸、富田英、黒江兼司、野木俊二、堀口泰典、岸田憲二、田村真通、上田秀明、安田謙二、高田秀実、田中慎一郎、鶴見文俊、片岡功一、矢野宏. モンゴルにおける遺残PDAに対するカテーテルインターベンション—モンゴル渡航小児循環器診療—. 第18回日本Pediatric

Interventional Cardiology 研究会. 平成 19 年 1 月 19 日-20 日, 福岡市.

- 7) 片岡功一、羽根田紀幸、富田英、岸田憲二、野木俊二、堀口泰典、田村真通、檜垣高史、上田秀明、安田謙二、高田秀実、田中慎一郎、鶴見文俊、矢野宏. 0.052 inch 径 12mm 脱落コイルを pigtail catheter と goose-neck snare 2 本で回収しえた巨大な術後残存 PDA 成人例. 第 18 回日本 Pediatric Interventional Cardiology 研究会. 平成 19 年 1 月 19 日-20 日, 福岡市.

講演

- 1) 羽根田紀幸. 第 7 回ハートセービングプロジェクトの報告. 出雲モンゴロウイクモンゴル渡航小児循環器医療団報告会. 平成 18 年 8 月 24 日, 出雲市
- 2) 羽根田紀幸. 小児心疾患に対するカテテルインターベンションとモンゴル渡航小児循環器診療「ハートセービングプロジェクト」. 岡山大学医学部小児医科学セミナー. 平成 18 年 9 月 5 日, 岡山市
- 3) 羽根田紀幸. 小児の心血管カテテルインターベンションとモンゴル渡航小児循環器診療「ハートセービングプロジェクト」. 松江市立病院循環器セミナー. 平成 18 年 9 月 7 日, 松江市
- 4) 羽根田紀幸. モンゴル渡航小児循環器診療 (ハートセービングプロジェクト). 出雲南ロータリークラブ「世界理解月間」卓話. 平成 19 年 2 月 16 日, 出雲市
- 5) 羽根田紀幸. モンゴル渡航小児循環器診療 (ハートセービングプロジェクト). 平田ロータリークラブ「世界理解月間」卓話. 平成 19 年 2 月 22 日, 出雲市
- 6) 片岡功一. 第 7 次モンゴル渡航小児循環器診療 (ハートセービングプロジェクト) に参加して. 高知医療センターセミナー. 平成 19 年 3 月 1 日, 高知市

その他

- 1) 羽根田紀幸. Altan Gadas (北極星) 勲章を受章して. JPIC NEWS LETTER 13: pp22-24, 2006.
- 2) 羽根田紀幸. モンゴルからの勲章授与. 里仁会会誌 14: p7, 2006.